五四運動に関する出版物

―― 1979年における ――

山根　幸夫

昨年（1979）は五四運動60周年にあたっていた。そのため，60周年を紀念するとともに，改めて五四運動の現代的意義を見直すため，中国でも香港，台湾でも，五四運動に関する図書が多数刊行された。それは研究書にとどまらず，回憶録や史料集など各種の図書に及んでいる。本稿では，昨年出版されたそれらの図書を紹介してみたい。

最初に張允侯・殷叙彝・洪清祥・王雲開編『**五四時期的社団**』4巻（三聯書店）を挙げたい。本書は五四時期に全国各地に出現した多数の社団に関する史料集である。本書編集の目的は，代表的な社団の成立・発生・分化および惹起した作用についての詳細な資料を網羅して，当時の愛国民主運動，文化運動と知識分子の思想状況を研究する参考に供することだという。本書に含まれている社団は23であるが，〝工読互助団〟〝合作主義小団体〟〝無政府主義小団体〟は必ずしも一個の団体ではない。各団体ごとに，最初にその社団の歴史・性質・作用などを簡単に解説した上，①社団宣言・章程・発起経過　②社員・職員名単　③重要会議記録と活動報道　④社員間の重要通信・問題討論　⑤内部思想闘争と分化過程　⑥出版物の発刊詞　⑦その他関係重要資料を収録している。

第1巻に収められているのは，新民学会，互助社・利群書社，少年中国学会の3団で，巻末に新民学会についての補遺が付加されている。第2巻には，国民雑誌社，新潮社，北京大学平民教育講演団，北京大学馬克斯学説研究会，覚悟社，工読互助団の6者が収められている。第3巻には，平民教育社，曙光雑誌社，少年学会，青年学会，覚社，浙江新潮社，永嘉新学会，批評社，新人社，改造社，共進社の11者が含まれている。第4巻には，合作主義小団体（平民学社，大同合作社，上海合作聯合会，合作同志社，平民協社，普益協社など）と無政府主義小団体（実社，進化社，奮闘社，民鍾社，群社など）の2者が収め

られている。本書は我々が五四運動を研究するために，きわめて利用価値の高い史料集である。従来，わが国では見られなかった貴重な史料も多数収められている。

次に『**五四愛国運動**』上・下（中国社会科学出版社）は，『近代史資料』24号として，1959年に刊行された史料集を，増補再版したものである。増補部分は，上巻の最初に収められた周恩来関係の2篇の文章（「警庁拘留記」および「検庁日録」）である。

中国社会科学院近代史研究所編『**五四運動文選**』（三聯書店）は，五四時期（1915～22）の代表的な文章を収録したものである。巻頭には，黎澍「論五四運動」（人民日報1959年5月3日原載）を掲げている。収録された各文章については，各版本の異同を検討し，字句の錯誤・遺漏を訂正し，依拠できるものとしている。「蘇聯第1次対華宣言」および「蘇聯第2次対華宣言」，および此の宣言に対する中国各団体・言論界の反響を掲げていることは，注目すべきであろう。

湖南省哲学社会科学研究所現代史研究室編『**五四時期湖南人民革命闘争史料選編**』（湖南人民出版社）は，湖南省における五四時期（1921年1月まで）の革命闘争に関する史料を分類・編輯したものである。但し，第1部（1912年至1921年湖南工礦業，手工業状況和工人的自発闘争）には，1912年以降の史料も含まれている。なお，採りあげられた工人の中には，泥木工，人力車工，理髪工などもある。第2部「湖南人民的反日愛国運動」は，五四運動それ自体の史料を収めている。第3部「湖南人民駆逐封建軍閥張敬堯闘争」は，いわゆる駆張運動を扱ったもので，これは湖南における五四運動の延長線上にあるものである。第4部「湖南的新文化運動」は，いわゆる新文化運動のみでなく，留仏勤工倹学運動やマルクス主義の伝播に関する史料まで広範囲に収録している。これらの史料の大部分は『新青年』『湘江評論』『新民学会会員通訊集』『新民学会会務報告』『烝陽請願録』『前鋒』『労働界』『湖南月刊』『天問週刊』『戦士週報』などの革命的刊行物や『湖南大公報』『礦業雑誌』『実業雑誌』などの商業出版物から採録したもので，一部分には，新中国になってからの調査訪問記や回憶録も含まれている。いずれにしても，現在わが国では本書がなければ絶対に利用できない，きわめて貴重な史料が多数収められている。

中国社会科学院近代史研究所編『**五四運動回憶録**』上・下（中国社会科学出版社）は，さきに1959年中華書局より出版された書を大幅に増補したものである。旧版は全体で266頁で，新版は実にその4倍の量を収めている。内容的にも，旧版には30余名の回憶録が収められているのに対して，新版には100余名の回想が採録されている。上巻の巻頭には，毛沢東・周恩来・朱徳・陳毅の五四前後の思想と活動に関する回憶が，編者によってまとめられている。毛沢東のそれは，エドガー・スノー『中国の赤い星』から摘録されたものであり，朱徳のそれはスメドレー『偉大なる道』から引用されたものである。周恩来の回想は，彼の談話・日録などから採られている。また，陳独秀・李大釗の≪新青年≫と五四運動に対する回憶，魯迅の≪新青年≫と文学革命に対する回憶，胡適の≪新青年≫と白話運動に対する回憶，郭沫若・茅盾の五四前後の思想と文学活動に関する回憶は，それぞれ編者によって適当な文献から抽出，編纂されたものである。編者は「(彼等の)過去に発表した文章，或いは談話中には，しばしば五四運動および当時の個人の思想・活動を回憶して，極めて重要なものがあるので，我々はその中の一部分を編録して，本書に編入した」と述べている。

回憶録というものは，かなり過去の事を，その当時の体験者に語らせるものであるから，時間が経過しているほど，その記憶が曖昧になっている可能性はある。それでも，実際にその事件に遭遇し，体験した人物の語る回憶は，事件の本質を考える上に，きわめて有力な資料になるであろう。なお，本書の編集工作に従事したのは，丁守和・黄国華・丘権政の3人である。本書の新・旧版の比較については，燎原№8に執筆した拙稿があるので，参照していただければ幸甚である。

北京大学学運史編写小組編『**青年運動回憶録——五四運動専集**』（中国青年出版社）は，次のような13篇の回憶を収めている。

蕭　三　毛沢東同志在〝五四〟時期
周世釗　湘江的怒吼——五四前後毛沢東同志在湖南的革命運動
賈　芝　李大釗同志戦闘的一生
廖永武　爲了共産花開——周恩来同志在五四前後的革命活動
楊　晦　五四運動与北京大学
劉清揚　覚醒了的天津人民

孫国華　山東人民的覚醒
屈　武　激流中的浪花——五四運動回憶片断
夏　衍　当五四浪潮冲到浙江的時候
張秀熟　五四運動在四川
傅紹昌　工人階級登上了政治舞台——五四運動中上海工人階級的闘争
何長工　在無産階級的熔炉裡——憶留法勤工倹学和共青団旅欧支部
王一知　五四運動引導我走向革命

最後に編者たちによって「五四運動前前後後」なる一文が，巻末に付加されており，五四運動の前夜，五四運動の経過，およびその深遠な影響について，要領のよい解説を施している。なお，本書には前文も後記もない。

陳少廷編『**五四運動的回憶**』（百傑出版社）は，丁度5月4日に出版されたものである。編序には「今年は五四青年愛国運動の60周年である。五四運動は中国青年運動史上，最も光輝ある一頁であり，中国青年の覚醒の標識である」，「編者は，この運動に参与した学生指導者の回憶文を収集して，青年学生によく正確に五四運動の真相を認識させ」ようという編纂の意図を表明している。その内容は，以下の16篇である。括弧内は発表年である。

胡　適　紀念「五四」（1935）
傅斯年　「五四」偶談（1943）
羅家倫　話「五四」当年（1958）
梁敬錞　我所知道的五四運動（1966）
陳長桐　五四運動50周年之回顧（1969）
田炯錦　五四的回憶与平議（1969）
王撫洲　我所記得的五四運動（1967）
毛子水　「五四」50年（1969）
張国燾　我参加「五四運動」的始末（1968）
葉如音　記「五四」上海学生聯合会（1964）
李玉階　上海学生響応五四愛国運動的経過（1977）
田少儀　「五四」時期的山東学生愛国運動（1970）
呂雲章　五四運動中的北京女学生（1962）

曽宝蓀　五四運動与芸芳（1973）
金達凱　五四運動的社会背景（1964）
左舜生　五四運動与蔡元培先生（1969）

いずれも一度，台湾または香港の雑誌（最初の2篇を除く）に発表されたものの中から採録したもので，『伝記文学』から採ったものが最も多い。張国燾の文章が収録されていることも注目に価する。

聯副記者聯合採訪『**我参加了五四運動**』（聯合報叢書，聯合報社）は，60年前の五四運動に学生として実地に参加し，現在も台湾で健在な人たちから，聯合報副刊の記者が口述筆記をとって，まとめた回憶録である。その内容は，次のとおりである。

毛子水　不要怕五四・五四的歴史是我們的！
呉道一　一名少出納
陶希聖　火燒曹公館
張玆闓　我在天津街頭站崗
張傑人　「五四夫妻」・救国不忘恋愛
楊継曽　「燕児昨晩歿」和「魚行老板」
白　瑜　在督軍的刺刀下
梁実秋　我看五四
葉秀峰　天津街頭「下跪」記
李玉階　愛国的警鐘，響遍了上海灘！
阮毅成　銭塘怒潮入夢來
鄭彦棻　愛国運動在広東
陳立夫　中共与五四扯不上関係！
曽省斎　風高浪急渡長江
楊亮功　五四一甲子
柳克述　「五四」与湖南学生

北京大学では楊亮功，陶希聖，毛子水，清華大学では梁実秋，南開大学では張玆闓，同済大学では楊継曽，務本女子中学では張傑人，交通大学では呉道一らの回憶が含まれている。

陳少廷には，前書と同じく各種の雑誌より関係論文を採録した『**五四新文化運動的意義**』（百傑出版社）もある。その内容は次のとおりである（括弧内は発表年）。

周策縱　「五四運動」告訴我們什麼（1971）
孫德中　「五四」与新文化運動（1962）
羅敦維　五四運動総清算試探（1962）
李　璜　五四運動的時代精神（1965）
林一新　五四運動的歴史意義（1977）
任卓宣　五四新文化運動之分析（1976）
余英時　「五四」文化精神的検討与反省——兼論今後文化運動的方向（1955）
謝文孫　斷害「五四」精神的幽霊——現代中国社会心理的分析（1960）
李欧梵　五四運動与浪漫主義（1972）
陳少廷　五四与台湾新文学運動（1972）

これらの論文は，史学者のみでなく，政治学者・社会心理学者・文学者などが，それぞれの視点から，五四運動を再評価したものである。余英時の論文のみは，彼の著書『文明論衡』（香港高原出版社）から採録されている。なお，陳少廷の編著は，巻頭に掲げた写真が両書ともまったく同一であることは，我々にとって些か奇異な感じがする。

周陽山主編，朱雲漢・彭懐恩共編『**五四与中国**』（時報出版公司）もまた，五四に関する既発表論文を収集・編纂したものである。全体を4篇に分け，第1篇「五四運動史選輯」は，周策縱〝The May Fourth Movement〟を抄訳したものである。第2篇「五四的回顧—五四運動五十週年討論集」は，1969年ハーバード大学哈仏燕京研究所で，B.シュウォルツの主持の下に開催された五四運動50周年討論会で報告された各論文を中国訳したものである。その内容は，次のとおりである。

シュウォルツ　五四的回顧——五四運動50週年討論集導言
フルス　五四的歴史意義
李欧梵　五四文人的浪漫精神
グリーダー　五四時代的「政治」問題
林毓生　五四時代的激烈反伝統思想与中国自由主義的前途

最後に，鄒紀万・何懿玲による，林毓生訪問記「<開放心霊>的認識与瞭解——対<五四>文化接触的反省」が付録されている。編者は，

李欧梵・林毓生の両論文は，五四研究にとって重要論文であると指摘している。

第3篇「五四的探討」には，ここ20年来の海内外各地の五四に関する重要論文を広く収録している。その内容は次のとおりである。

＊陳曽燾　五四運動正名（1970）
＊余英時　五四文化精神的反省（1973）
呉相湘　從史実探討五四運動的意義及影響
労思光　五四運動与中国文化
殷海光　五四的再認識（1968）
金耀基　中国文化意識之変化与反省——從「五四」到「四五」的歴史転折
＊グリーダー　胡適与文学革命
鄭学稼　陳独秀的民主観——紀念「五四」60週年（1979）
陳国祥　主導五四時代的新青年雑誌（1979）
黄武忠　剪不断的文化臍帯——五四運動与日拠下台湾新文学的発展（1979）
周玉山　五四歴史不容篡奪——懐五四，説真相（1979）
湯　晏　史学家曲解歴史——記紐約「五四」運動55週年紀念大会（1974）

（＊印を付した者は，香港を除く海外居住者）

最後に，ゴールドマン編〝Modern Chinese Literature in the May Fourth Era〟の，黄碧端による書評（1977）が付録されている。なお，編者は最近日本およびフランスでも，五四に関する論著が発表されているが，翻訳・スペースの関係上，これらは割愛したと断わっている。

第4篇「五四的反省」は，50数年にわたる五四運動に関する回憶的な文章8篇を収めたもので，その内容は次の通りである。

羅家倫　一年來我們学生運動底成功失敗和將來応取的方針（1920）
梅光廸　評提唱新文化者（1922）
胡　適　紀念「五四」（1935）
呉文祺　五四運動与文学革命（1940）
田炯錦　「五四」的回憶与評議（1969）

李　璜　我所経歴的五四時代的人文演変
李秋生等　愛国運動与新文化運動——香港文教界人士「五四」座談会発言摘録
唐君毅　1800年来的中国学生運動之歴史発展
周陽山　五四与中国——論有関五四的研究趨向

最後の1文は，編者の後記というべきものであろう。総頁771頁にのぼる大冊であり，内容的にもすこぶるバラエティに富んでおり，五四研究に際しては，便利な参考書になるであろう。但し，五四といっても，専ら新文化運動の面に比重がかかっており，政治的側面は欠落している。これは最初から，その意図の下に編集されたわけであろうが，筆者としては不満がないわけではない。なお，巻頭に掲げられた，五四に関係ある多数の写真はきわめて興味ぶかい。ただ残念なことには，写真があまりにも不鮮明なことである。

次に，五四60週年を紀念して刊行された論文集を挙げてみたい。最初は『**解放思想，走自己的道路——紀念五四運動60周年**』（三聯書店香港分店）である。本書は五四60週年を紀念して，『人民日報』『光明日報』などの新聞紙上に発表された論文をまとめた，わずか81頁の小冊子である。但し，政治的にはきわめて重要な意味をもつ論文といえよう。内容は次のとおりである。

華国鋒　在紀念五四運動60周年大会上的講話（原載『人民日報』）
許徳珩　在紀念五四運動60周年大会上的講話（原載『人民日報』）
周　揚　三次偉大的思想解放運動——在中国社会科学院召開的紀念五四運動60周年学術討論会上的報告（原載『人民日報』5月7日）
社　論　解放思想，走自己的道路——紀念五四運動60周年（『人民日報』）
社　論　走歴史必由之路——紀念五四運動60周年（『光明日報』）
社　論　青年們，永遠站在時代的前列——紀念偉大的五四運動60周年（『中国青年報』）
丁守和　〝五四〟時代的号角≪新青年≫（『人民日報』5月2日）
袁偉時　從〝五四運動〟看思想解放（『光明日報』5月2日
鍾　城　民主・科学・社会主義——紀念五四運動60周年（『上海文

滙報』5月5日）

本書の巻末には「紀念五四運動60周年的有関書刊」なる1文を付録しているが，それによれば以上に紹介したものの他に，中国青年出版社では『**五四時期的歴史人物**』，中国社会科学出版社では『**五四運動簡史**』，広東人民出版社では『五四運動論文集』，および浙江人民出版社では『五四運動在浙江』が刊行される予定であるという。日本にはまだ入荷していないが，或いは中国では既に出版されているものもあるかも知れない。

香港大学中文学会編『**五四運動60周年紀念論文集**』（香港大学中文学会）も，五四60周年を紀念して編纂された論文集である。本書については，東洋学報61巻3・4号に紹介を書いたので，ここでは内容目次を掲げるのみにしておきたい。

馬　蒙　五四週開幕礼講話（代序）
周策縱　論五四運動（対談）
王徳昭　論五四運動対文化遺産的継承
陳炳良　魯迅在五四前後的思想
趙令揚　五四期間之新青年及主要文学団体
李　鍔　記五四期間有関広東省工会法問題
黎活仁　五四的批孔運動随想
何冠彪　王国維与五四思潮
李焯然　五四期間的批孔先鋒——呉虞
付　録　中文学会「五四週」工作報告

本書もまた91頁の小冊子であるが，香港大学中文学会のメンバーが，五四の再評価にとりくんでいる姿勢を伺わせるものがある。やはり新文化運動を主要な考察対象としている。

最後に汪栄祖編『**五四研究論文集**』（聯経出版事業公司）を挙げたい。本書は台湾で刊行されたもので，内外の学者の執筆になる17篇の論文を収めている。五四運動を愛国運動と新文化運動の両面から把握しようとしており，史実篇・文化篇・人物篇の3部に分っている。史実篇は，当時の政情・学生運動・労働運動・対日関係といった，いわば政治史的分野の論文を収め，文化篇では西洋文化と中国伝統思想が，五四運動にどのような影響を与えたかという思想史的な論文を収めて

いる。人物篇では，五四期の活動において，これまであまり注目されなかった諸人物に光をあてている。内容目次は次のとおりである。

〔史　実　篇〕

張玉法　民初政局与五四
呂実強　五四愛国運動的発生——従歴史背景到立脚因素
葉嘉熾　五四与学運
陳明銶　五四与工運
林明徳　日本与五四

〔文　化　篇〕

余英時　五四運動与中国伝統
呉　森　杜威思想与中国文化
唐徳剛　「芻議」再議
周明之　五四時期思想文化的衝突——以胡適婚姻爲例
陳暁林　五四時代理想与現実的衝突——以「少年中国学会」爲例
汪栄祖　五四与民国史学之発展
林載爵　五四与台湾新文化運動

〔人　物　篇〕

傅楽成　傅孟真先生与五四運動
張朋園　梁啓超与五四運動
Duikur, W.　蔡元培与五四運動
呂芳上　朱執信与新文化運動
林麗月　梅光廸与新文化運動

なお，巻頭に掲げられた写真には，学生の集会，示威行進，街頭演説など，きわめて注目すべきものが含まれている。本書もまた，五四の政治面よりは文化面に重点をおいているように思われる。而も，五四新文化運動は伝統思想の破壊を推進したかにみえるけれども，実はその基本的精神は伝統思想の継承に他ならないとの見方をとっているように思われる。それは余英時の論文に，もっとも端的に示されている。かかる傾向は，香港大学中文学会編「五四60周年紀念論文集」にも看取できる。勿論，これは従来の五四観に対する一つの反省ではあろうが，やはり簡単には納得できない点がある。その他，胡適に対する過大評価や，マルクス主義・無政府主義思想などに対する無視は，

気になる点ではあるが，五四運動の再検討を提唱するものとして，注目すべき論文集といえよう。

その他，五四に関係の深い人物を扱ったものとして，『**李大釗伝**』（人民出版社）も刊行されており，彼の五四期の活動は，第4章「五四運動的領導者之一」で扱われている。その他，南開大学歴史系・天津歴史博物館編『**五四前後周恩来同志詩文選**』（天津人民出版社）も新刊が予定されている。重版についていえば，『李大釗選集』（人民出版社），『蔡元培選集』（中華書局）も刊行されている。五四時期におけるマルクス主義の伝播については，蔡書編『**五四時期馬克思主義反対反馬克思主義思潮的闘争**』（上海人民出版社）や丁守和・殷叙彝『**従五四啓蒙運動到馬克思主義的伝播**』（三聯書店）が重刊されている。前書は1961年8月に第1版が刊行されたが，わが国にはほとんど入荷しなかった。今回の重版に当っては，第2節「馬克思主義反対封建復古主義的闘争」を増加するとともに，第6節に改修を施している。後書は1963年に初版が出たが，やはりわが国に入荷したものは多くなかった。但し，本書は1978年8月，松尾洋二氏の作成した23頁にのぼる詳細な索引を付加した影印本が，燎原書店より出版されている。それ故，利用者にとっては，北京版よりも影印本の方が便利ではないかと思われる。

その他，光明日報の出版案内によれば，南開大学歴史系・天津歴史博物館編『**五四運動在天津**』（天津人民出版社）も近く刊行される由である。さきの上海，浙江，湖南にひきつづき，天津の史料集も出るとなれば，次にはぜひ『五四運動在山東』の刊行を期待したい。なお，私は未見であるが，台湾先知書局より鄔昆如『**五四運動与自由主義**』も刊行されているようである。以上の他にも，筆者の気づかなかったものがあるかも知れないが，1979年に刊行された五四運動関係の主要な文献はほぼ網羅したつもりである。